

1/28 市長対話会 質問・意見まとめ

※本内容は、対話会で出された意見・感想を要約したものであり、すべての意見を網羅したものではありません。

○小学校保護者質問・意見

1. 学校の配置最適化について

- ・第一小の卒業生が芦城中と丸内中に分かれる現状はいつ解消されるのか。
- ・猛暑でプール授業が激減している。維持費を考え、市民プール利用や外部コーチへの委託など集約化を検討してはどうか。
- ・中学校の配置が一部(松陽・芦城・丸内)に偏っており、若杉・八幡方面から遠すぎる。新設を含めた最適化を検討しているか。
- ・学区による人数差が大きく、教育の質や学力の格差につながっている。市全体でバランスを取るべき。
- ・小規模校はPTA等保護者の負担が重い。統合で通学距離が長くなれば交通事故が心配。スクールバス増便などの対策が不可欠。
- ・高齢者が多い地域では学校が拠点。通学距離の延長は子供の安全面からも限界であり、現状維持を望む。

2. 学校の規模(学級数等)について

- ・大規模校(第一小等)でも現状大きな問題はない。数ありきではなく、児童生徒を中心に考えた規模にすべき。
- ・1 学年 1 クラスを解消し、2 クラス以上を確保して多様な人間関係や切磋琢磨できる環境を作るべき。
- ・少人数であることを否定せず、少人数だからこそできる一人ひとりに寄り添った教育を追求してほしい。
- ・児童数の減少や、同学年内での極端な人数差(クラス割)に不安を感じている。
- ・支援学級の質のバラツキ(担任による対応差)をなくし、一貫した手厚い支援を継続してほしい。

3. 通学区域・通学距離について

- ・安全性が第一。距離が延びるほど事故リスクが高まり、保護者の目も届かなくなる。防犯カメラ設置などの対策を。
- ・徒歩 30 分程度なら体力がつくメリットもあり、教育環境が良くなるなら許容できる。
- ・雪国の通学は過酷。融雪が効かず膝まで埋まる場所もある。各町内へ小型除雪機を配布できないか。
- ・通学距離が延びる場合の「適切な距離」の基準を明示し、遠距離にはバス対応を検討してほしい。

4. 学校施設の多機能性・高機能性について

- ・防犯機能の強化を。
- ・ICT(タブレット等)の充実が良いが、小松市が重視する「書く」学習などアナログとの両立を継続してほしい。
- ・デジタル化だけでなく、老朽化した遊具の更新や図書の実充など基礎設備の底上げも必要。
- ・猛暑は命に関わる。校舎の断熱、空調強化、体育館へのエアコン設置など具体的な暑さ対策を急いでほしい。

5. その他、教育に関することについて

- ・先生の労働環境とメンタルケアが重要。若手の離職を防ぎ、意欲ある先生が子供に向き合える体制を。
- ・部活動の地域移行への不安(指導方針のズレ、練習場所の優先順位、親の送迎負担、運営主体の不明瞭さ)。
- ・一部の中学校での学校運営への懸念。適切な規律と指導体制を整えてほしい。
- ・学校再編に伴う学童保育(放課後児童クラブ)の定員・場所の確保。共働き世帯への配慮。
- ・うらら改修中の文化行事(合唱・吹奏楽)の代替会場を確実に確保してほしい。
- ・「統合検討委員会」は作らないのか。
- ・他の学校の現状も数字で見ることができて、将来の学校のあり方を考えるよい機会となった。
- ・給食無償化は払える意思のある人は払う選択肢があってもよい。
- ・小中一貫校のメリットとデメリットをききたい。中高一貫校はできないか。
- ・自校が最適化の対象候補となった場合、児童、保護者、地域の方が集まった「前向きな対話の場」が必要で、その取り組みに対しサポートをお願いしたい。

○中学校保護者質問・意見

1. 学校の配置最適化について

- ・ハードよりソフト面のネガティブ傾向を考えれば、避けられないこと。統廃合のデメリットを転換し、メリットを出す(特別支援学級の併設等)ことでも知見を絞るべき。
- ・現状で問題なし。
- ・学びの場を集約する必要性はあると思うので、一定の児童がいる学校の再編をお願いしたい。
- ・通学手段の改善とセットだと思う。となると道路の改修、歩道、自転車道の整備も必要だと考える。
- ・賛成。子供達の教育環境ファーストでお願いしたい。
- ・私が学生の時に比べて児童生徒数が減少しているのは実感している。多ければいい、少ないとダメということではないのが、必要ではあると思う。難しいことではあるが、他の県内外の例を参考にすすめて欲しいと思う。
- ・学校だけでなく、様々なインフラも含め、コンパクトシティ構想のような考えも必要と思う。
- ・よりよい教育環境を確保するためにも、引き続き進めていく必要があると思った。
- ・学校規模によってもアンケート回答の違いがあると思う。校区によって回答の違いは？

2. 学校の規模(学級数等)について

- ・保護者の関心の低下が懸念される。適正化を進めるべき。
- ・現状で問題ない。
- ・一定規模、学級数があって切磋琢磨できるので、進めて行って欲しい。
- ・各学年3クラスは必要だと思う。常時ではなく、課外活動として合同で行うなどでも良い。
- ・最適化に伴い通学の問題が出てくる。
- ・小規模のメリットもある。大小の選択ができて良いかも。
- ・少子化が進んでいることをあらためて実感した。
- ・「一定の集団規模」とは何人？ 1クラス35人？

3. 通学区域・通学距離について

- ・私の周りでも以前より児童生徒数の減少は話している。小学校ではいよいよ1クラスになると聞いている、そうになると他校との統合という話で通学距離に不安がある。
- ・特に問題ないが、遠く思う人もいるかもしれない。
- ・道路交通の事情も考える必要がある。通学時の安全面に関する懸念。
- ・通学の整備(スクールバス等)を。送迎で仕事が制限される人もいるので。
- ・徒歩や自転車でいける距離にすべきと思う。できればスクールバスの運行も考えてほしい。
- ・今後統合等がある場合のスクールバスの運行等、検討が必要だと思った。

4. 学校施設の多機能性・高機能性について

- ・大切。議論を深めるべき。
- ・多機能性、高機能性とはなにか。
- ・特になし。
- ・多機能・高機能性をよくするのはいいが、その前に総合再編が優先。子どもや教職員から案を集めるとよいのではないかと思う。
- ・教員のことを考えると、どこでも可能というのは現実的に困難なので、どこかに集約が良いかも。
- ・老朽化が進んでいると思った。これからの学びに対応できる教育環境が必要。

5. その他、教育に関することについて

- ・部活動の地域移行について。移行中としているが、指導員(学校先生)の報酬が低すぎるとの声があった。長時間労働から金銭ということもあり、解決にならないのではないか。改善できないか。
- ・改修に伴う在校生の負担について。代替バスの運行等について、一定の配慮ができないか？
- ・特になし。
- ・繊細な子が多く感じる。その子達の手厚いケアをお願いしたい。
- ・教育への補助は大変ありがたい。世の中が非常にスピーディに変わっているが、新しいことや学力向上として今後お考えのことはあるか？
- ・次世代を担う子どもたちのためにも教育の向上に力を注いでほしい。その為にはできる限り協力していきたい。
- ・教員も大変と思うが、教員への教育も必要では。

○小学校校長質問・意見

1. 学校の配置最適化について

- ・中学校区を解体していく見通しはあるか？中学校の数を変更しなくてもよいのではないか。
- ・学校がなくなることで地域の過疎が進むことを地域住民は気がかりに思うはずだ。
- ・子どもの教育環境や地域の核としての役割は、世代によって考え方が変わる。調整は難しいが進めるべき課題であり、取り組もうとしている姿勢を評価する。
- ・学年の集団としてある程度の人数がいなければ、よい教育を行うことができない。適正配置は必要だと思う。
- ・市長が話された通り、配置最適化には賛成。集約することで人や施設を充実させた方がよい。
- ・意見が多様であり、取りまとめるのは非常に難しそうだ。

2. 学校の規模(学級数等)について

- ・2クラスでは隔年で同じようなメンバー(クラス替えの効果が薄い)になってしまう。
- ・子どもの関係性の改善や居場所作り、教職員の指導力向上の視点から考えると規模の確保は必要。しかし、全校児童が少なく学年を超えてワイワイ遊んでいるのも良さそうだと感じる。
- ・適正な規模としては、3クラス程度がよいと思う。
- ・児童数がこれほど少なくなっていることに驚いた。

3. 通学区域・通学距離について

- ・スクールバス導入校を増やす予定はあるか。
- ・通学方法はバスが現実的だが、運転手の確保が難しいと聞いている。自動運転システムの導入も合わせて検討するとよいのではないか。
- ・スクールバスが運用されれば、距離が多少遠くなくてもよいのではないか。
- ・(学校統合の際、)移動手段(登下校)は確保できるのか。
- ・通学距離が遠くなる児童への配慮(バス等の手配)はどうなるのか。
- ・市バスとうまく協力して(通学を)行えるとよいのではないか。

4. 学校施設の多機能性・高機能性について

- ・こども園やその他福祉施設的な機能を持つ施設にするなど、広く考えていく必要があると思う。
- ・車椅子を利用する児童が入学した場合や、身体の具合が悪い時のことを考えると、エレベーターがないのは非常に危険かつ不便。改修等に合わせて設置をお願いしたい。
- ・外部の人が校舎内へ入らないことが大前提。開放する場合は不審者対策に苦心することになる。
- ・熱中症対策や夏のプールの廃止を考えると、体育館への冷房完備は必要である。
- ・老朽化が進んでいる校舎が多く、修繕をしてもまた別の場所が悪くなるという繰り返しになっている。

5. その他、教育に関することについて

- ・現在は 1 クラスあたりの基準人数が多い。教室に35個机が並ぶと巡視もままならないほど狭く、ICT 機器(大型モニター等)が増えたこともあり限界。教室の広さの基準または人数を見直してほしい。
- ・節電の必要性には賛成するが、デマンド(最大需要電力)の数値制限が大変厳しい。寒い時期は朝から警告音が鳴り、エアコンを停止して職員室や子どもを優先して使用するのが日常となっている。
- ・(配置最適化が)教員不足の解消につながる取組になるとさらによい。
- ・小松市としてコミュニティ・スクール化についてはどのように考えているか。
- ・教員不足による課題が多い。最適化によって教育の場を均等に提供できるようになってほしい。
- ・支援員、サポーター等をもっと増やしてほしい。
- ・教育バスは増えるのか。

○中学校校長質問・意見

1. 学校の配置最適化について

- ・これからの学びの方向性を考えると、他者とのコミュニケーション、意見の交流等の重要性は必須であり、少規模の学校では充実できない。最適化は部活動の地域展開にもつながるものと考えます。
- ・教員の人員不足解消と生徒数の減少への対応を考えると、長い目で考えてもらえない。環境を整えてからでは厳しい。
- ・地域の要望も大切だが、ある程度のトップダウンもいたしかたないと思う。スピーディーに進めてほしい。

2. 学校の規模(学級数等)について

- ・中学校の35人学級をすすめてほしい。目が届き、教員の負担が軽減できる。
- ・板津の校舎に安宅の生徒がスクールバスで通うなど、今あるものでまずできることはないのかと思う。将来的には中間地点に学校をつくる見通しを示し、納得してもらおう。
- ・最低でもクラス替えができる学級数が望ましい(単級はよくない)。学年が変わる節目は大事。
- ・どの学年も2~3クラスが必要。中央部は今のままでも良い。

3. 通学区域・通学距離について

- ・学校への通学区域は、原則校区を定める方が良いと感じる。選択制が良い結果を生まなかった例もあった。自分の学校、地域の学校という意識をもつことが様々なことに生きてくると思う。
- ・現在の区域では、通学距離が限りなく遠い生徒がいる。このことから学校の配置を一考してほしい。できればスクールバスの導入を。
- ・学校(駐車場)の除雪を登校の時間までにしてもらえるとありがたい。送迎の車が地域への迷惑になっている。送迎用スペースが近くに確保されない限り、学校としては対応しかねる。
- ・配置の適正化が進むのであれば、スクールバスでの対応が必要。

4. 学校施設の多機能性・高機能性について

- ・学校施設に多機能性をもたせる場合には、「学校教育施設としての機密性」の確保をまず確立してから考えていくことが大切だと感じた。個人情報の保護や、施設の保全が児童生徒の安全な活動につながるためである。開放できる場所とできない場所の区別をしっかりと行い、それに対応する施錠や空調等の整備が行われてから、実施に向けて考えていくことが大切だ。
- ・バリアフリー、体育館の空調整備。
- ・熱中症対策として体育館の空調。不登校対応として校内にフリースペースと人員配置を。
- ・学校数を早めに絞って、体育館、校舎の空調を早急に整備してほしい。

5. その他、教育に関することについて

- ・不登校、別室登校への対応ができる専門の職員を配置してほしい。
- ・部活動を地域へ移行する方針の見直しを。市が打ち出すべき。学校長が変われば方針が変わるようでは困る。以前の時のように(毅然と)言うべきでは。

○質問票記入者無記載質問・意見

1. 学校の配置最適化について

- ・時代の流れ、子供の減少を考えると、学校の配置最適化、再編はやむを得ない。
- ・学校の統廃合により、地域の活気がなくなることを懸念している。
- ・子どもの教育環境、特に切磋琢磨できる環境を整えるために進めてほしい。
- ・適正化を進める上で、空いた校舎の有効活用(地域の拠点、避難所等)についても具体案を示してほしい。
- ・教育の質を落とさないことが最優先。
- ・「関心の低さ」「情報不足」等について、今後どのように伝えていくのか。
- ・学校の配置最適化が必要なことは分かったが、地域には様々な思いがあり、進め方の難しさを感じる。

2. 学校の規模(学級数等)について

- ・適正な競争原理が働くよう、1 学年 2～3 クラス以上は確保してほしい。
- ・単学級(1 クラスのみ)だと、人間関係が固定化され、トラブルがあった際の逃げ場がないことが心配。
- ・少人数教育のメリットもあるが、社会性を育むには一定の集団規模が必要。
- ・学級数が多い方が、教員の数も増え、多様な指導が受けられると思う。

3. 通学区域・通学距離について

- ・統合による通学距離の増加が一番の不安。
- ・低学年の子供が長い距離を歩くのは安全面、体力面で負担が大きい。
- ・通学路の安全確保(歩道整備、防犯灯の設置)を徹底してほしい。
- ・遠距離になる場合は、スクールバスの運行や、公共交通機関の補助などを検討してほしい。
- ・冬場の除雪についても、通学路を優先的に行ってほしい。
- ・統合前提で考えると遠くなる場合の通学方法が重要になると思うので、いろいろな方法を考える必要がある。
- ・中学校は部活動等で希望すれば住民票を移さず、通学できるようになればいいと思う。

4. 学校施設の多機能性・高機能性について

- ・老朽化した校舎の建て替えや改修を急いでほしい。
- ・全ての教室、体育館へのエアコン設置を早急にお願いしたい。

- ・ICT 環境の整備(1 人 1 台端末の活用)をさらに進め、デジタル教育を充実させてほしい。
- ・放課後児童クラブ(学童)との連携や、地域住民が利用できるスペースの確保を。
- ・現時点で教室が足りない。教室数を増やしてほしいが、簡単ではない。

5. その他、教育に関することについて

- ・部活動の地域移行について、保護者の負担(費用や送迎)が増えないようにしてほしい。
- ・不登校の児童生徒が増えている。相談体制の充実や、適応指導教室の拡充をお願いしたい。
- ・教員の働き方改革を進め、先生が子供と向き合う時間を増やしてほしい。
- ・小松市独自の特色ある教育(SDGs やキャリア教育など)を推進してほしい。
- ・「スポーツのまち小松」として、冬でも子供たちが試合や練習を行えるよう、既存の体育館の利用拡大、全天候型のスポーツ施設の整備・確保をお願いしたい。